

第7回 伊勢湾漁業影響調査委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成 28 年 8 月 31 日 9:30～12:30
2. 場 所：TKP ガ-テンシティ-名古屋新幹線口 バンケットホール 7A
3. 審議内容：重要漁業生物の予測評価方針について
伊勢湾シミュレーターの再現状況について
護岸域における生態系物質循環の解析について

4. 委員の発言要旨

【重要漁業生物の予測評価方針について】

- 各漁業生物の総合評価方法について、予測された影響に対し相加的に評価するように見えるものがあるが、再生産の過程における減耗を適切に評価するためにも相乗的に評価することが適当ではないか。
- 生物の分布には連続性を有しているものがある。特に、浮遊期を伴う種については、構造物による分断への影響が大きいと考えられるため、その影響について考慮していく必要がある。
- 埋立地の工事過程において、漁業を営むことができなくなる範囲が広がる影響についても考慮していく必要があるのではないか。
- イワシ類の成長曲線の設定や、シラス漁場への影響の検討は、専門員の助言を得ながら進めて欲しい。
- カサゴやマナマコのように、護岸域で目視観察により定量を行っているものについては、護岸に生息するのか、沖の砂場に生息するのかを整理する必要がある。
- DO と生息分布の関係については、三河湾における主要魚種に関して、逃避も含めた DO 濃度と生息分布の関係に関する研究成果が愛知県水産試験場より発表されているので、参考にしてはどうか。

- 水域の環境変化に基づく影響を評価していくこととしているが、底生生物については、底質の変化に対する影響が大きいと考えられるため、評価方法について検討して欲しい。
- クロダイは、重要漁業生物の一つであると同時にノリの食害種でもあることから、双方を踏まえた評価の仕方について検討が必要である。

【伊勢湾シミュレーターの現況再現について】

- 二枚貝類の浮遊幼生ネットワークは、観測値とシミュレーションの整合が図れているか十分に精査して欲しい。
- 浮遊幼生の挙動は、微妙な気象、海象条件の変化が大きく影響すると考えられるが、どのように予測結果に反映していくのかが課題である。

【護岸域における生態系物質循環の解析について】

- 標本船調査等より、護岸域では多くの肉食者が確認されていることから、計算の対象種とするのはシャコのみではなく、確認されている種による影響をできる限り反映させた方が良い。
- 現地調査により、胃内容物の調査成果が揃っていることから、食物連鎖フローを確認できるモデルを別途作成し、計算結果を照査してみてもどうか。

以上